

第2回佃中学校区学校適正配置検討準備会 議事要旨

1 日時 令和8年7月23日（木）午後7時～午後8時

2 場所 佃中学校 図書室

3 出席者

（委員） 平田会長、中田副会長、平田（朋）委員、平岡委員、中本委員、加納委員、平井委員、

前澤 佃小学校校長、小西 佃西小学校校長、吉沢 佃中学校校長、
小川 西淀川区こども福祉担当課長（事務局）

（区役所）松田区長、楯川副区長

（教育委員会事務局）

山崎 学校適正配置担当課長、古市 第1教育ブロック指導主事、
吉岡 第1教育ブロック指導主事

4 議題及び議事要旨

（1）議題：佃中学校区学校適正配置に係るこれまでの経過について
事務局より資料に基づき説明を行った。

質疑応答：

委員 他都市の小中一貫校については、5－4制を採用しているところが多い
のではないか。

事務局 5－4制を採用している小中一貫校は全国的にみても多くはない。

佃西小学校校舎のキャパシティの問題への対応として、また、6年生が
中学校校舎に通うことに伴い、より小中連携につながると考えられること
から、大阪市からの提案をしてきたところである。

委員 6－3制を採用するということは、これまで通りということか。

事務局 佃地域については、適正配置を実施することで1つの中学校に対し、1
つの小学校となるためこれまでより小中学校の連携が取れるよう小中一貫
校を提案している。

委員 可能性は低いかもしれないが、仮に佃地域で大規模マンションが建ち住
人が増え、各学年1クラス増やすこととなった場合、6クラスの増が必要
となる。そのような想定もしたうえで適正配置を行うということか。

事務局 適正配置における推計は今いる未就学児などを元に、令和14年までの
推計であり、このベースでの推移をみたもの。この場合、令和14年にお

いては佃西小学校校舎でなんとか収容できる見込み。

図工室を教室に転用すればさらに2クラス分の確保が可能となる。

ただ一方で、今後新たにマンションの建築による児童数の増加が見込まれる場合は、増築等が必要となる可能性がある。

アンケート実施に向けての保護者説明会においてはそうしたことも説明した上でアンケート回答をいただいたものと考えている。

委員 昨年の説明会では6-3制を採用することとなった場合、小学校と中学校では授業時間に5分違いがあり、教員の移動が難しく中学校教員による小学生への専科指導のカリキュラムが確保しにくいと説明があった。

6-3制の小中一貫校とする場合でもそういった交流は行ってほしいと思うので、教員を手厚く配置いただくなどの措置をぜひ検討いただきたい。

(2) 議題：佃中学校区学校適正配置に係るアンケート結果について

事務局より資料に基づき説明を行った。

質疑応答：

委員 今回の適正配置について、6-3制となるということなので、保護者の大半は佃小学校と佃西小学校がただ普通に合併したとしか思わないのではないか。

小中一貫校として小学校と中学校とで具体的にどんな交流をしていくのかなどアピールして、理解してもらうことが重要になってくると思う。

事務局 まず外形的な面では〇〇小中一貫校というような、通称を決めていくこととなる。

また、活動内容としては、これまでの一般的な小学校、中学校とは異なり、より小中連携に向けて連携事業をやっていくこととなる。

教育 本市の他区事例として、東淀川区の西淡路小学校と淡路中学校が1小1中となり、「須賀の森学園」という通称の小中一貫校となっている。

そちらでは月に1回必ず小・中の教員が集まって、児童生徒の情報共有や、合同行事の打ち合わせを行っている。

さらに小学校のある学年と中学校のある学年がペア学年を作って一緒に活動する時間を設けたりしている。

また、中学校の部活動体験を実施することができたり、6年生が午前中だけ中学校校舎で過ごすという日を設けたりもしている。

このように小学校の児童が中学校に入り込んで先生と関わるなど、いわゆる一般的な小学校中学校の形態と異なる取組をしているという事例がある。

委員 小中一貫校としてスタートするにあたり今後作られるカリキュラムや教育方針について、保護者や地域の方の意見を反映させていくことができるのか。

事務局 カリキュラムや取組などを最終決定するのは校長先生となるが、保護者や地域の皆さんからのご意見として、取組へのご意見などがあるようであれば、検討会議などの場でご意見をお聞きする場面を設けるよう検討してまいる。

会長 子どもたちのために良い学校となるよう、ぜひ皆さん方のご尽力、ご協力をお願いしたい。